

祝

2017年9月 放送大学博士号(学術)取得

神谷光信さん(取得時57歳)

【論文テーマ】ポストコロナ的視座より見た遠藤周作文学の研究…村松剛…辻邦生との比較において明らかにされた、異文化受容と対決の諸相

文学を通して、世界を美しくしていくための人間的な努力なのです

■遠藤周作の文学に横たわる人種主義への批判

「遠藤周作はキリスト教徒でしたが、代表作を読み直すと、根底には近代西洋の植民地主義や人種主義に対する怒りのようなものが横たわっていたというのが、本研究における私の主張なのです」

国際的にも有名で多くの著作が翻訳されているが、代表作の一つ『死海のほとり』は、韓国語以外には翻訳出版されていない。抑圧されるアラブ人を描いたシーンなどから、反ユダヤとの追及をされかねないと、出版社が気を遣ったものと思われる。

慶長遣欧使節の支倉常長がモデルの『侍』も代表作。藩命でローマを訪ねた武士が、やむなくキリスト教徒になるが、帰国後に切腹させられる。その旅の背景に、大航海時代の西欧がキリスト教を布教しながら、銃で原住民を迫害していく姿が描かれている。1980年に書かれ、歴史小説の形を取っているが、70年代までアフリカで実質植民地支配していた国々に残る問題を語ろうとしたと分析する。

■東日本大震災を機に放送大学大学院に入学

少年時代から文学好きで、自身はクリスチャンではないが、日本のキリスト教作家が好きだった。大学卒業時に父親が病気になる、大学院進学をあきらめて教員になった。そこそこ豊かで平和に暮らしていた50歳のとき、東日本大震災があり衝撃を受けた。震災や原発事故の中、まだ小さかった子どもたちが生きていくこれからの日本が、もっとしっかりしなくては。自分ができるのは、専門の文学を通して世の中に役立つこと。そのためには、もう一度ちゃん

と勉強し直さなきゃダメだと、働きながら可能な放送大学大学院に入学した。修士課程を卒業した2014年に博士課程が開講し、倍率は20倍以上だったのが挑戦。合格した1期生の一人に選ばれた。

修士論文は、遠藤とフランツ・ファノンという黒人のフランス人思想家を比較研究。着目したのは、二人が同じ時期にフランスで学生生活を送り、同じように白人から人種差別を受け、同じように白人女性と恋をし、同じような書物を読んでいたこと。ファノンはアルジェリア独立を支える革命家に、遠藤は小説家になったが、出発点において、人種主義や植民地主義への怒りと批判を共有していたのだ。

■博士になることの覚悟と看板

放送大学ではメインの指導教授の他に、サブの先生が2人付く。メインの青山昌文先生は美学・芸術

学が専門、サブの2方は国文学と国際政治学の先生で、それらのゼミにも出させてもらった。そうした幅広い研究環境を得たことで、今までにない視点からの遠藤研究ができたと感じる。

「財団の助成金も受けられ、おかげさまで放送大学最初の博士4人の中に名前を残せました。絶対3年で取ると強い決意だったものの、口頭試問では論文の弱点をいろいろ指摘され、自分の体を切り刻まれる辛さでした。どれだけ厳しい世界に入るのか、学者になるという意味が骨身にしみました」

博士号取得後、遠藤周作の関連書籍への執筆を求められた。「遠藤周作研究の神谷」という看板ができたこと、それだけが続けるわけではないが、博士号ってこういうことかと責任を感じている。

■実践美学としての文学の役割

「青山先生から、美には視覚的な美しさの他に実践美学という概念があり、人間の言動の美しさや、それぞれの立場で少しずつ世の中を美しくしていく姿勢が大切だと教わりました。今の世の中は、誹謗、差別、戦争など、美しさの対極にある地獄のような様相を呈しています。戦争の反対語は文学だという方もいます。敵対する国や民族それぞれの中にも平和的な活動家がいるように、図式的じゃないところで理解し合うためにも、文学とか映画の役割、存在価値があるのではないのでしょうか。」

これから博士号を目指す皆さん、人生は一度きりです。松田妙子理事長が発破をかけてくれますので、後悔しないようぜひ挑戦してください」



神谷さんは神奈川県立高校の教師。担当する国語の授業では、世界地図を使ったユニーク指導をしている。